

## えべつ地域創生の会先進都市行政調査報告書

1. 調査年月日 令和3年11月9日(火)～11日(木)

2. 調査地及び調査項目

〈鹿児島県鹿屋市「柳谷自治会(通称:やねだん)」〉

行政に頼らない、自主財源確保する柳谷町内会(通称:やねだん)にて地域創生を調査

- ① やねだんの活動と故郷創生塾について
- ② 自主財源確保について
- ③ 自主財源による地域再生の取組について

〈鹿児島県鹿児島市仙巖園内博物館「尚古集成館」〉

鹿児島県の屯田兵の歴史について

- ① 鹿児島県の屯田兵制度について
- ② 江別屯田兵村、野幌屯田村への派遣について

3. 視察議員

石田武史、岡英彦、本間憲一、鈴木誠

4. 調査報告書

別紙のとおり

## 鹿児島県鹿屋市「柳谷自治会(通称:やねだん)」

### 1.柳谷町内会(通称:やねだん)の沿革

鹿児島県大隅半島のほぼ中央部に位置する鹿屋市串良町柳谷地区にあり、108 世帯 251 人(2020/8 月現在)が生活する、高齢化が進む典型的な中山間地域の集落です。全国から故郷創生塾に 1000 人を超える参加者、視察に年間 5000 人も訪れ地域再生、地域創生の実践

1996 年から柳谷町内会(通称:やねだん)会長を務める豊重哲郎氏は、「行政に頼らない感動のまちづくり」を掲げ、全員参加の村おこしを進めてきました。住民総出でサツマイモ、唐辛子の生産、土着菌による土壌改良をはかり生産性を上げることにより、運動遊具の建設、青少年、高齢者福祉に活用され、みなし法人として納税もしているとのことでした。



[豊重哲郎自治会長よりやねだんの歴史を学ぶ]

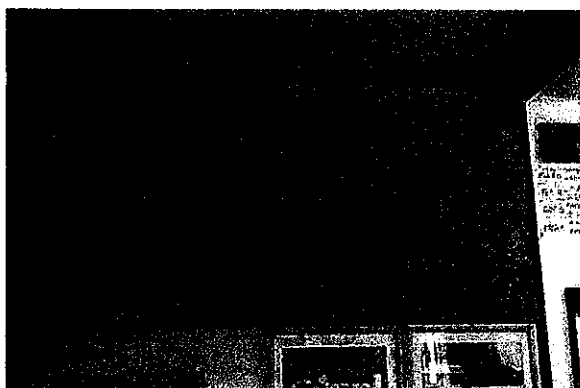
### 2.年間 5000 人以上の視察研修

やねだんでは、地域再生、地方創生を進めるため全国各地から市町村議会議員、首長、地域団体、民間団体の方々が年間 5000 人以上の視察があり、やねだんの諸活動を学び全国各地での地域創生をめざしている。土着菌を家畜肥料として給餌することにより悪臭対策に効果があることが分かって、2000 年から集落で土着菌づくりに取り組み、土着菌を堆肥にすると甘くておいしいカライモ(焼酎の原料)できるようになった。

### 3.「故郷創生塾」へ全国から研修に集まる

2007 年スタートした故郷創生塾は、毎年春と秋の年 2 回開催されている。これまでの卒業者は全国に

1153 人となり、行政職員、首長、議員、福祉職員、企業等職種も様々の皆さんが参加している。豊重哲郎塾長は、地域再生には、「良きコーディネーター」、「良きリーダー」が不可欠であり、特に企画力、演出(アドリブ)力、財務力が必要であり、そして人間力養成が一番大切であると力説しています。故郷創生塾では、テクニックではなく、人徳の養成塾であると言っています。いかに人間力を磨くか、他己満足、他人の力や才能をいかに引き出すかを徹底してやるなど特徴ある取り組みを行っている。やねだん故郷創生塾は、3泊4日の合宿形式で行われ、3日間深夜12時まで講座があり徹底した現場主義発想の実体験を行っている。募集要項では「地域振興に携わる熱血漢溢れる者」とされ、一般的な研修とは違う内容となっている。



[やねだん創生塾 10ヶ条]



[やねだん故郷創生塾にて塾長を囲み]本間議員撮影

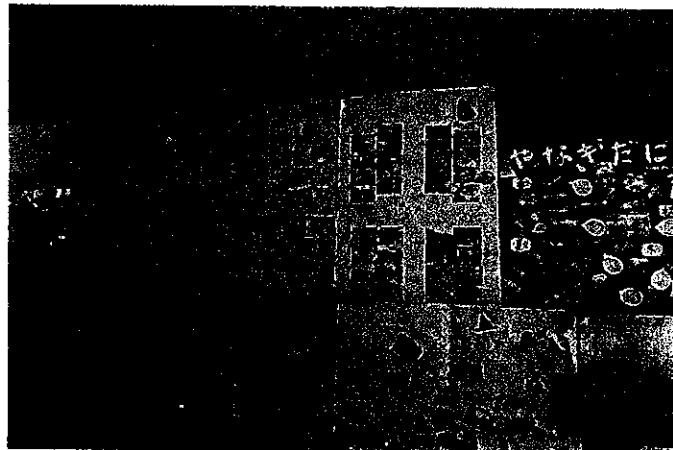
#### 4.住民自治の基本は自主財源の確保

町内会長に就任した当時は、やねだんの住民は 325 人で高齢化が進み、耕作放棄地や空き家が増え続けている中で町内会長を引き受け、補助金に頼らない自主財源の確保に取り組んだとのこと。自主財源を年間 100 万円以上を目指し、それを高齢者福祉、高校生以下の子どもの教育、地域力を高めていくための人材育成に活用。カライモは、災害に強く 10 アールあたり 10 万円の収益が見込め、休耕地を提供してもらい、収益金でイチロー選手を見に行こうとの呼びかけに 12 人の高校生が畑作業に参加した。自主財源生産額 1998 年 138 万円からスタートして自主財源を確保したとのことである。主な財源 ①梅酒「やねだん」②芋焼酎「やねだん」③やねだん唐辛子

#### 5.自主財源による取組

- ① 集落安全パトロール隊を編成…高齢者との情報交換、交流の活性化、地域の見守り役
- ② 防犯ベルを全世帯に配布…安心安全な暮らしを守るため犯罪予防活動として全戸に配布

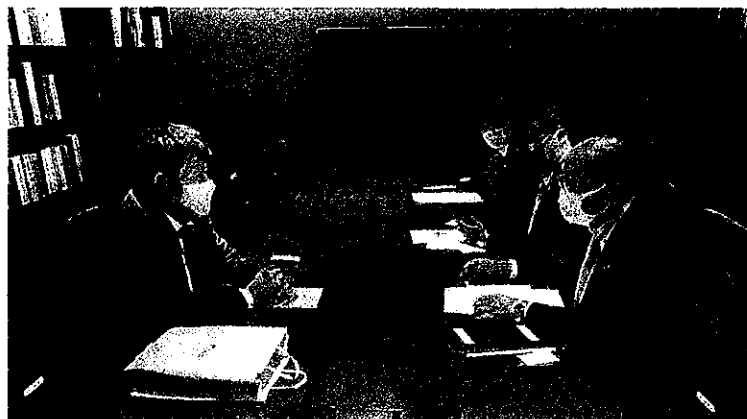
- ③ 緊急警報器を高齢者宅に設置…一人暮らし、寝たきり同然の高齢者が 119 番も出来ない状況から緊急警報器を設置
- ④ サンセットウォーキング大会…3 歳から 8 歳の子もたちを対象に 4 キロ、高校生がサポートしてウォーキングを実施
- ⑤ メインストリートに集落在住アーティストによる絵画展示…古民家を改修し迎賓館として再活用し、画家、彫刻家、写真家等を招聘し、アート迎賓館を開設。
- ⑥ 空き家を改修し迎賓館として活用…故郷創生塾の塾生の宿泊先として活用
- ⑦ わくわく運動遊園を建設…住民の参加により手作り遊具などを作製
- ⑧ 芸術家の移住を誘致…絵画、彫刻家等を迎賓館に居住
- ⑨ 集落葬…自治会館にて祭壇の組み立て葬儀を葬儀委員が行う。集落葬は約 13 万円。わくわく運動遊園の一角に共同墓地を作りやねだんで管理、集落で最期を看取り、一緒に野辺の送りをするにより子どもたちにも命の大切さが伝わる。



[自治会活動の歴史を学ぶ]

## 〈鹿児島県鹿児島市仙巖園内博物館「尚古集成館」〉

尚古集成館は、島津藩末裔の(株)島津興業が日島津藩別邸内で運営している博物館である。今回の視察で説明を頂いたのが尚古集成館館長の松尾千歳氏で屯田兵制度及び産鉄港の調査研究を行っている。



〔尚古集成館館長の松尾千歳氏から説明を受ける〕

### 1.鹿児島県からの屯田兵の歴史について

#### (1)鹿児島県の屯田兵制度について

薩摩藩主島津齊彬は、南から迫るイギリス・フランス・アメリカは薩摩藩が盾となり、北が手薄、北海道を開拓しないとロシアに奪われると主張。その思いを受け、明治維新後、黒田清隆ら大勢の薩摩藩出身者が北海道に乗り込んで薩摩の知識・経験を活用し開拓に従事した。

明治政府は、明治 2 年に北海道開拓使を置いた。その後、明治 19 年に北海道庁が置かれた。そして北海道庁の幹部の多くは、薩摩藩士とゆかりのある人物で、多くの薩摩の知識経験が北海道で生かされたとされる。

#### 主な薩摩藩関係者の活動

ア 北海道開拓使長官 初代は長官鍋島直正(前佐賀藩主)、2代は東久世通禧、3代目が黒田清隆、4代目が西郷従道

イ 札幌農学校 明治 9 年開校、初代校長は調所広丈(薩摩藩家老の子)

ウ 屯田兵制度 西郷隆盛が明治 4 年～6 年にかけて士族による北方警備と開拓を提唱し、明治 6 年黒田清隆の建白により屯田兵設置が決定した。屯田兵制度は、薩摩藩独自の「外城制度」=開墾と防衛を両立させる仕組みを土台にして導入したもので、屯田兵を指導したのが元薩摩藩士の永山武四郎であった。

※薩摩藩の武士は藩人口の 20%程度であり他藩では 7～8%位とのことであり、明治維新後の士族(武士)

の処遇にも関係していたとのことであった。

エ サッポロビール 村瀬久成(元薩摩藩英国留学生)が、北海道で栽培するホップ等は、北海道で試験栽培すべきであると主張し開拓使麦酒醸造所が札幌に建設された。

オ 北海道炭礦鉄道 北海道に豊富な石炭資源があることが、確認され、明治 10 年代に炭鉱開発が本格化した。石炭を搬出するため鉄道・港湾が整備され、明治 22 年には元薩摩藩土堀基が設立した北海道炭礦鉄道に払い下げられた。堀は、幌内炭鉱等炭鉱の開発、幌内鉄道の営業、小樽・室蘭港の整備、石炭の海運、日本製鉄所の設立などを行った。

(2)九州地域からの江別屯田兵村、野幌屯田村への入植について

明治 18 年 7 月入植者

	江別屯田	篠津屯田	野幌屯田	計
鹿 児 島	16	5	30	51
佐 賀	9	7	24	40
熊 本	7	4	21	32
計	64	16	75	123

明治 11 年から明治 19 年の入植者数は、計 445 人となるが、その内 123 人が九州地域出身、27.6%を占めている。



[鹿児島県仙巖園(旧島津藩別邸)]